



編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ㈹054-254-5224 ㈹054-251-7508



退任のご挨拶

前静岡県民生委員児童委員協議会会长 越川 年

私は、昨年十一月をもちまして、定年により退任いたしました。

三年前に大ベテランの天野隆玄会長の後を受けて、会長の重職につき、はたして私に務まるものかと不安な気持ちのまま船出をしましたが、会員の皆様方の温かいご支援のおかげで、何とか無事に任期を全うできたことにほっとしております。

この三年間は生活困窮者自立支援制度の施行をはじめ、子ども・子育て支援新制度の施行、児童福祉法の改正、社会福祉法の改正等いろいろな制度改変がありました。そのような中で、益々、対応困難な課題も増えてまいりました。私は、今、力を注がねばならない問題のひとつとして、本年度の総会でも申し上げましたが、子どもの問題への対応が重要と考えています。すべての民生委員が児童委員の立場を兼ねていることを意識した活動を進めていくことが大切です。しかし、現在の活動内容は、やや高齢者の問題に偏り、子どもの問題が、おろそかになつているように感じています。子どもの問題は、主任児童委員の任務と勘違いすることなく、委員全員で取り組んでほしいと思います。一世紀前に始まった「済世顧問制度」や「方面委員制度」の目的は「防貧」でした。「貧困の連鎖」を繰り返させぬためにも子どもの問題に取り組む必要性は大変大きいと思います。

最後に、民生委員制度創設百周年を契機に静岡県民生委員児童委員協議会の更なる発展を期待するとともに、委員各位には出来るだけ永く民生委員・児童委員としてご活躍いただきようお願いをして退任の挨拶といたします。

民生委員・児童委員委嘱状交付式

日時：平成28年11月29日（火）

場所：グランシップ大ホール 海



昨年12月1日の一斉改選に伴い、新しい民生委員・児童委員1,876人への委嘱状交付式（主催：静岡県）がグランシップで行われ、川勝平太知事から各地区の代表者8人に委嘱状が手渡されました。

川勝知事から「民生委員制度の起源である“済世顧問制度”は富士市出身の故笠井信一氏により大正6年に創設された。この間、生活様式や価値観は大きく様変わりしたが、いつの時代にあっても民生委員・児童委員の方々は、住民の立場に立った支援活動を展開してこられた。昨今、高齢者の孤独死や子どもへの虐待に代表される様々な生活課題が顕在化しているが、各地域における支え合い活動の中心として御活躍いただきたい。」と励ましの言葉がありました。

■ 今期改選委嘱者数（静岡市・浜松市を除く。）

| | 民生委員・児童委員 | 構成比 |
|------|-----------|-------|
| 委嘱者数 | 3,907人 | |
| 男 | 2,017人 | 51.6% |
| 女 | 1,890人 | 48.4% |
| 新任 | 1,729人 | 44.3% |
| 再任 | 2,178人 | 55.7% |
| 平均年齢 | 66.2歳 | |

| | 主任児童委員 | 構成比 |
|--|--------|-------|
| | 328人 | |
| | 30人 | 9.1% |
| | 298人 | 90.9% |
| | 147人 | 44.8% |
| | 181人 | 55.2% |
| | 55.8歳 | |

| | 合計 | 構成比 |
|--|--------|-------|
| | 4,235人 | |
| | 2,047人 | 48.3% |
| | 2,188人 | 51.7% |
| | 1,876人 | 44.3% |
| | 2,359人 | 55.7% |
| | 65.4歳 | |

ひろば

都会の民児協との交流



南伊豆町
民生委員児童委員協議会

大年 清一



御殿場市
民生委員児童委員協議会

佐藤 守

健康、出会いに感謝



島田市
民生委員児童委員協議会

川合 徳次

一齊改選に思う

南伊豆町では、平成三十年一月のオープンに向けて、自治体間連携による全国初の特別養護老人ホームの建設が進められている。静岡県と東京都杉並区が補助金を出し、南伊豆町が土地を無償貸与し、社会福祉法人が施設を建設・運営するという形である。

この特養の建設は、昭和四十九年に杉並区が本町に虚弱児童等を対象とした施設を開設し四十年近い交流があつたが、その役割が終了したとして、平成二十四年三月末に閉鎖しましたことに端を発している。(その後、建設場所は施設のあった場所から町有地に変更。)

このような状況下で、本町と杉並区は色々な分野で交流が始まり、双方の民児協の交流の話が持ち上がり、平成二十七年十月に本町の委員が杉並区を訪問、平成二十八年十月に杉並区の委員が、本町を訪れ交流を深めた。

本町の人口、約八千七百人、委員数二十九人、杉並区はそれぞれ五十五万五千人、四百三十人と規模は桁違いである。しかしながら、この交流を通して、都会と田舎での活動上の悩みや課題の違い、また、参考になる事例も確認でき、有意義な交流となつた。

世界遺産霊峰富士の麓御殿場は、人口九万人の自然豊かなまちです。

活動組織は、五つの地区民児協で、民生委員児童委員一四一名、主任児童委員二一名、計一五二名体制です。行政・社会福祉協議会と連携をとりながら、安心・安全・福祉のまちづくりを目指して、高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくり、子どもたちが健やかに育つことができる地域づくり、認知症の人や家族を支えていく地域づくり、災害に強い地域づくりのために、日々奮闘しております。

大きな社会問題となつてている子どもの貧困対策、児童虐待や生活困窮者自立支援など、地域における福祉・生活課題が複雑に深刻化するなかで、我々、民生委員児童委員、主任児童委員が担う役割はますます大きく重要な役割になります。各地区の課題を踏まえ、行政への提案や関係諸機関との支援・協力を得ての活動を今後も持続的に行つてまいります。

一齊改選から早や数ヶ月が過ぎ、私も御殿場市民児協会長として、人材育成や各委員が安心して活動できる環境づくりを遂行していく所存です。そのためには、まず、健康が第一です。健康に留意し、そして、新たな出会いに感謝して活動してまいります。

掲載、配布されるのは春の待たれる頃でしょうか。

今は一齊改選で委嘱状の交付直近の時、新任委員は引き継ぎもほぼ終わり民生委員の役責の重さに身が引き締まる思いと、一抹の不安がよぎり断れば良かったと思っている方もちづくりを目指して、高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくり、子どもたちが健やかに育つことができる地域づくり、認知症の人や家族を支えていく地域づくり、災害に強い地域づくりのために、日々奮闘しております。

私は4期前リタイアしたら地区の為に何かをしようとは社内報に書きました。まさか民生委員になるとは思いませんでした。済世顧問制度から方面委員、民生委員制度と成つて来ましたが民生委員は地域の名士がなるものと思つていました。時代は変わりました。私の所に民生委員の話が来るなんてビックリですがこんな私でもなんとか出来ました。地区的見守りに重点を置き、困った方が居たら良く話を聞き行政に繋ぎ悩みを関係機関と協同で解決をして行くお手伝いなど決して深く踏み込まないよう心がけて来ました。

そして今民生委員のなり手がないと言う事で委員の仕事を軽減しようという話が聞かれます。軽減と共に民生委員に社会が認めた役職の重さも軽くなり、活動に支障が出る事はないでしょうか。私は心配です。

今の仕事が民生委員の役責であり、役の重さではないかと思います。先輩の民生委員が培われた歴史を守る事も大切かと思います。皆さんはどの様に思いますか。

ひろば

貴重な体験に感謝



川根本町
民生委員児童委員協議会

前澤 仁子

民生委員を一期で卒業。正直、ホッと安堵する気持ちがある。

三年間、貴重な研修や活動をさせて頂いた。民生委員になつたから経験できた事である。

「見守り」を思い起こしてみる。地区の家を一軒一軒覚える事からスタートした。訪問すると、俳句、野菜作り等の話が聞け、いつも勇気付けられるのは私の方だった。

大変なお叱りを受けた経験もした。相手の身になつた話ができるとなかつた事から起きた事。訪問の難しさを胃の痛みと共に感じた。常に見守りができた訳ではない。一人暮らしの私は結構忙しく、地区を歩く日も少なかつたので、大変心苦しく思っている。

それでも三年経ち、私も少し変わった。老けただけではない。病院等でヘルプ信号が出ている方を見ると、お手伝いをと体が反応する。川根本町の活動にも自ら参加することが増えた。これは、三年間にわたって、各方面で日夜努力している方たちのお陰である。

最近、区長さんから、次の民生委員の方へのご理解とご協力の暖かいお話を頂いた。本当に有難かつたし嬉しかった。私も保健委員を引き受けているので、民生委員の方との関わりを大事にしてやつて行けたらと思う。

映画「みんなの学校」鑑賞会



菊川市東地区
民生委員児童委員協議会

黒田 好一

この映画は「不登校も特別支援学級もない、同じ教室で一緒に学ぶ、普通の公立小学校の挑戦」ドキュメンタリーです。

私たちは児童教育のきっかけにと考へ、市民児協に鑑賞会開催を提案。計画は障がい者福祉部を中心に実行委員会を開き日時会場を検討。その中から民児委員八三名のみでの上映は勿体ないとの意見が出されました。

そこで市内小中高校や福祉施設、市役所、児童教育に携わる方、近隣の御前崎市、掛川市民児協等にもご案内することになりました。会場は「社会福祉法人草笛の会」体育館を借り八月二十日、一九〇余名の参加により開催。

終了時には寄付金を募り净財として施設に贈り、授産品のパンを販売する場の提供も出来「草笛の会」に貢献もできました。

鑑賞後の九月中旬、菊川東地区委員二一名は撮影された大阪市立大空小学校を授業参観。そこでの教育は四つ「人を大切にする・自分の考えをもつ・自分を表現する・チャレンジする」の力と、大空小のたつたひとつ約束「自分がされていやなことは人にしない言わない」が守られており、障がいのある児童と共に助け、生き生きと笑顔で同じ教室で学んでいました。

全先生とサポートが一丸となつて児童を見ていている様子を目の当たりにし、これからのお教育方法の一つとして学ぶ有意義な研修でした。

縦と横の糸の地域福祉活動



湖西市
民生委員児童委員協議会

三浦 光雄

人口6万人の湖西市では、3つの法定地区民児協、10の地区会、103名の委員からなり、4つの専門部会に所属して日々の活動に励んでいます。

専門部会は地区を超えた専門分野での研修が主体になりますが、地区会は同じ地区での委員同志が、互いに情報を共有し合い悩みを打ち明ける場でもあり、一人で悩むのではなく、地区の先輩のアドバイスを受け、以後の委員活動が意欲的に取り組めるよう、勇気をもらえる場だと、これまでの私自身の経験から痛感しています。

この度の改選でも、多くの新しい委員を迎えることになりますが、新しい委員の方は一人で悩むのではなく、わからない事は何でも地区の先輩に相談して、そのアドバイスを参考にして、活動に活かす事が大切ではないでしょうか。

行政が縦の糸なら、民生委員は地域に軸足を置いた、正に横の糸であると思います。中島みゆきの歌のように、縦の糸と横の糸が一緒になって、織りなす布のように、地域のきめ細やかな福祉活動を推進していくれば思っています。

平成28年度(第85回) 全国民生委員児童委員大会報告

平成28年度(第85回) 全国民生委員児童委員大会が平成28年10月20日～21日に香川県高松市サンメッセ香川等で開催され、県民児協から30人の理事等の方々が出席しました。

次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、御報告いたします。



大 会 宣 言

来年、民生委員制度は創設百周年を迎えます。済世顧問制度に始まり、方面委員制度を経て今日に至るまでの間、強い使命感と熱い情熱に支えられた先達は、それぞれの時代において人びとが直面するさまざまな課題に向き合い、住民に寄り添いながら、その幸せな暮らしを守るために活動を続けてきました。

しかし、今日においても制度創設以来の課題である貧困や孤立をはじめ、高齢者や障がい者、児童を狙った犯罪や虐待被害は深刻な状況にあります。また、東日本大震災や本年の熊本地震など、自然災害も多発するなか、人びとの生活の安全、安心をいかに守っていくのかが問われています。

こうしたさまざまな課題を抱える人びとを支援するため、昨年度、生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て支援新制度、改正介護保険制度がスタートしました。本年においても社会福祉法、児童福祉法、障害者総合支援法などが改正されるとともに、四月からは障害者差別解消法が施行されました。これらがめざすものは、誰もが支えあい、助けあうなかで安心して生活を送ることができる「共生社会」の実現です。そしてそのなかにあって、制度と住民をつなぐとともに、制度のはざまに陥ってしまいがちな住民への支援を担う民生委員・児童委員に寄せられる期待は一層大きなものとなっています。

来年の制度創設百周年という大きな節目を前に、本日、ここ香川県において第八十五回全国民生委員児童委員大会を開催するにあたり、私たちは強い決意のもと、次のとおり宣言します。

一、支援を必要とするすべての人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動に取り組むとともに、地域の幅広い関係者と連携し、住民参加による支えあいのまちづくりをすすめます

一、子どもを虐待やいじめ、犯罪被害から守るとともに、貧困の連鎖を断ち、子どもの夢と希望を実現できる社会づくりに取り組みます

一、東日本大震災や熊本地震などの被災地の人びとや、そこで活動する民生委員・児童委員への支援を引き続き行うとともに、災害に備えた地域づくりに取り組みます

一、基本的人権についての理解を深めるとともに、地域において人権啓発に関する取り組みに積極的に協力し、人権を尊重した地域づくりに取り組みます

一、制度創設百周年を前に、先達の思いと委員活動の歴史をあらためて振り返るとともに、広く社会に民生委員・児童委員制度の周知に取り組み、その一層の充実・発展に向けて取り組みます

平成28年10月20日

第85回 全国民生委員児童委員大会

長泉町民生委員・児童委員協議会の活動紹介

長泉町は県東部にあり、沼津市、三島市に隣接し、豊富な地下水と交通の利便性を背景に工業の盛んな町です。人口は42,989人と今だに人口が



長泉町定例会議

増加し続いている数少ない地域です。これを反映し高齢化率は21・2%と県下で一番低い町です。このような環境の中、民生委員児童委員協議会（以下「民児協と略す」）は87名

（民生委員児童委員は84名、主任児童委員3名）で、単位民児協としては全国的にみても大世帯です。委員は四部会に分かれ活動していますが、一年毎に部会が変わる点がユニークなところで、利点は高齢、児童、障がい、地域の各部会が経験できることと主任児童委員は常に児童福祉部会に属しているので、児童関係の問題を濃く相談できることです。定例会議は毎月1回委員

会議後は部会毎の会議を行います。定例会議を行います。合わせて約3時間充てています（定例会議と部会会議の時間配分は半々です）。定例会議の他、委員の全員が参加している会議に地域ブロック会議があります。町内の区（自治会で70～1600世帯）を近隣同士8つのブロックに分け委員間のネットワーク強化を目的に地域の情報共有し、日頃の活動及び災害時に相互に協力するシステム

です。これは区に委員が1人のみのところが多く、委員の事故の時にも対応できるようにすることも目的の一つです。こども、高齢者の見守りだけでなく、地域福祉活動への拡大を期待しています。特に災害時要援後者への対応、災害時の民生委員児童委員の安否確認には威力を發揮すると思います。



郡研修会

全員が集まり開催し、福祉保険課（課長、担当者）、社会福祉協議会担当者は毎月出席し、議題によっては他の課の関係者も出席します。議題は民児協からの活動計画・報告、行政及び社協からは町の福祉関係の報告等の説明・連絡があります。定例会議を行います。

次に研修について、研修には全体研修と個人研修があります。前者の一つは県内外への研修で年二回行い、最近では災害関係が多く、東日本大震災のいわき市、長野県北部地震の白馬村の民児協と交流し、貴重な体験をお聞きし、「災害時活動基準」の見直し等をしました。生活困窮者自立支援に関する話題は先進的取組みをしている大津公社を訪問し、実情を把握しました。その他状況に応じ、テーマを決めて研修に出かけています。もうひとつの全体研修は事例発表会と状況に応じて講師を招いての講演会（灾害、福祉関係、委員活動等）です。歴史ある研修会は駿東郡三町（清水町、小山町、長泉町）共催の研修会で、開催場所は持ち回りで、年2回講師を招き講

行っています。県外は千葉県、長野県、三重県、島根県と県内は近隣の駿東郡内、函南町が多く、民児協の運営、部会活動状況等について話し合い、お互いの長所を取り込むようにしています。他には民児協の活動PRと見守り活動を兼ねて、町の福祉健康まつりへの出店（よりそいば開設、こどもゲームコーナー）、地域防災訓練への参加、高齢者・障がい者への支援（独居高齢者食事会、スポーツ大会参加等）、子どもが地域の人達もが地域の人達の支えのもと放課後校庭でのびのび安心して遊ぶことができるようにする事業（のびのびスマイル）への参加（児童福祉部会が参加）等をし



高齢者食事会

行っています。いざという時のためAEDの講習は全員受けています。日々の活動のため傾聴ボラ養成講座も必須化しています。これからも地域の方々が安心して暮らしていけるように日々の見守りや相談活動に取り組んで行きます。



のびのびスマイル事業（こども支援）

ています。

いざという時のためAEDの講習は全員受けています。日々の活動のため傾聴ボラ養成講座も必須化しています。これからも地域の方々が安心して暮らしていけるように日々の見守りや相談活動に取り組んで行きます。

平成28年度厚生労働大臣表彰等被表彰者の紹介

(敬称略)

●厚生労働大臣表彰

宮川紀代美（三島市）
加藤 公子（沼津市）
駿藤 春代（沼津市）
稻葉 芳典（富士市）
栗田 洋子（富士市）

静島智賀子（沼津市）

深澤 尊明（富士市）
萩原 浩（焼津市）
番場 英子（藤枝市）
山本 寛（袋井市）
井川あい子（湖西市）

田中 孝子（沼津市） 幸子（沼津市） 米作（沼津市） 川口 育代（沼津市） 赤井 俊彦（沼津市） 勝間田邦英（御殿場市） 木村 憲司（富士市） 青山百合子（富士市） 山本 協子（富士市） 浅賀 幸枝（富士市） 森田 一久（富士市） 本多 恒康（富士市） 藤田 里美（富士市） 山本 慶子（富士市） 鈴木 恵子（焼津市） 北島 玲子（藤枝市） 栗田まさ志（藤枝市） 藤井 博（藤枝市） 山本 豊昭（掛川市） 袴田 宽（袋井市） 伊藤 泰子（湖西市） 伊藤 村松（袋井市） 伊藤 安代（磐田市） 伊藤 泰子（湖西市）

遠藤 裕子（沼津市） 寺川 富春（下田市） 室伏美登里（伊豆の国市） 大澤多津子（熱海市） 山森 慶子（熱海市） 倉田とし子（熱海市） 高橋袈裟昭（熱海市） 尾崎 則子（三島市） 福室 秀子（三島市） 川口志津代（三島市） 堰沢 功（沼津市） 大木 和美（沼津市） 杉山 杠行（沼津市） 静島智賀子（沼津市） 莉部 芳子（沼津市） 三浦 伍朗（三島市） 民生委員・児童委員功勞 会長表彰

編集後記

平成28年は、「一斉改選の年」との思いを持つての1年でした。

新任の民生児童委員の方は、前任の方から滞りなく引継ぎがされたであろうと推察します。

さて、昨年印象深かったことの一つに、法定地区民児協会長研修会で

「子どもの貧困について地域でできること」の講演の中で、講師の方が言われた言葉があります。「子ども達は2016年を生きています」と

いう言葉です。心にたいへん重く響きました。以来、今まで以上に「今」を大切に思いながら活動しています。

県内各市町の民生委員児童委員の方々の活動を、この「民児協だより」を通して知ることができ、多くの仲間の方々との出会いも成長させて下さったと感じています。

地域の人と人の繋がりを大切に、思いやりを持ち見守り活動をしていきたいと思います。

（井）

●全国社会福祉協議会
会長表彰